

## 序 言

東京都江戸東京博物館では、開館以来、都市・江戸東京に関する調査研究を行って展示や教育普及事業への基盤としてきました。またその成果を研究報告書や調査報告書等として編集・刊行し、広く都民へ提供してきました。

さて、この度の『東京都江戸東京博物館研究報告第16号』では、特集として昨年度の当館シンポジウム「江戸の水害—被害・復興・対策—」報告として、論文4本と報告1本を、また今年度までの調査研究の成果として論文4本、研究ノート1本を所収しました。

特集「江戸の水害」は、隅田川周辺をはじめ関東地方で大水害を引き起こした寛保2年水害を中心に論じたものです。このシンポジウムは、都市歴史研究室の3年間にわたる特定研究「隅田川流域の歴史と文化」の成果の一部です。災害都市ともいわれる都市・江戸東京の災害の一つ「水害」をテーマに、その復興や対策という面から取り組んだもので、未来の都市災害対策の参考となれば幸いです。

本報告書を通じて当館の博物館活動の一端をご認知いただき、また活用していただければと存じます。

平成22年3月

東京都江戸東京博物館 都市歴史研究室